



特集

# 2 伸長著しい婚活サービス。今後の展望を探る

リクルートブライダル総研

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は大きな変化を余儀なくされました。重要なライフイベントの1つである結婚、それを実現するための手段である婚活には、どのような変化が生まれたのでしょうか。本稿では、2020年と2021年の「婚活実態調査」(リクルートブライダル総研調べ)より、婚活サービスの現状や将来展望について読み解いていきたいと思えます。

## ここ数年でぐっと増えてきた婚活サービスの利用

かつて日本では、結婚相手と出会う方法としてお見合いが主流だった時代がありました。それが時代の移り変わりとともに恋愛結婚が主流になり、結婚相手を自分で見つけるというように変遷していきます。そのなかで、近年、新たな出会い方が広がり、大きな変化の波が広がり

つつあります。それが婚活サービスです。

婚活サービスには、アドバイザーがいてふさわしい相手を紹介してくれる「結婚相談所」や、インターネットで自分の条件や相手の希望を登録し、相手を探す「ネット系婚活サービス」、結婚につながる出会いを目的としたパーティーやイベントに参加する「婚活パーティー・イベント」などがあります。

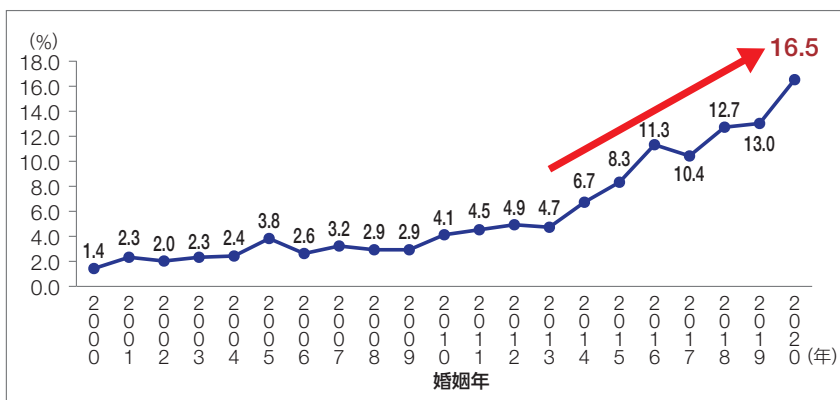
こうした婚活サービスを利用する割合は年々増えていて、2020年に結婚した人のうち婚活サービスを利用していた人の割合は33.1%に上りました。2000年では15%だったので、婚活サービス利用者はこの20年で大きく伸長し、婚活サービスの市場が大きく広がっています。

次に、婚活サービスを通じて結婚した人の割合をみてみましょう。2020年は16.5%で、およそ6人に1人が婚活サービスを通じて結婚しているという結果が出ました。こちらも2000年

では1.4%と低く、2013年頃から上昇傾向に転じ、2018年からは3年連続で過去最高を更新し、ここ数年で婚活サービスの浸透スピードがぐっと高まっています(図1、図2)。

また、恋愛や結婚をしたいと考えていて、なおかつ恋人がいない独身者に着目してみても、2021年は27.2%が婚活サービスを利用したことがあり、利用経験者は4年連続で増加傾向、特にネット系婚活サービスの伸長ぶりが目立ちます。

図1 婚活サービスを通じて結婚した人の割合(各年に結婚した人)



出典：「婚活実態調査2021(リクルートブライダル総研調べ)」

【調査方法】インターネットによるアンケート調査

【調査期間】2021年5月28日(金)～2021年6月3日(木)

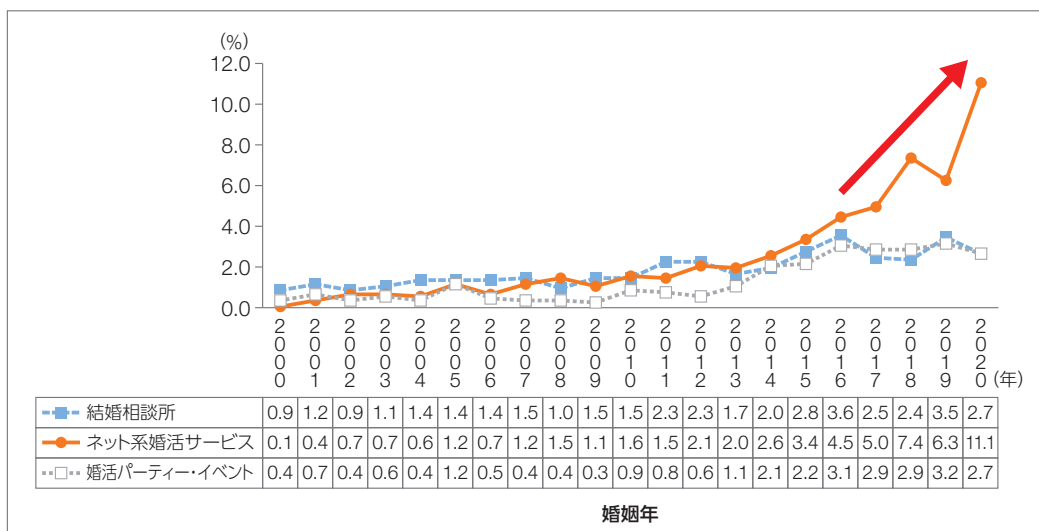
【調査対象】全国の20～49歳の男女

【有効サンプル数】50,000サンプル

※婚活サービス(婚活サービス：結婚相談所、ネット系婚活サービス、婚活パーティー・イベントの3サービス)のいずれかを利用し、そのサービスで「結婚できた」と回答した人の割合

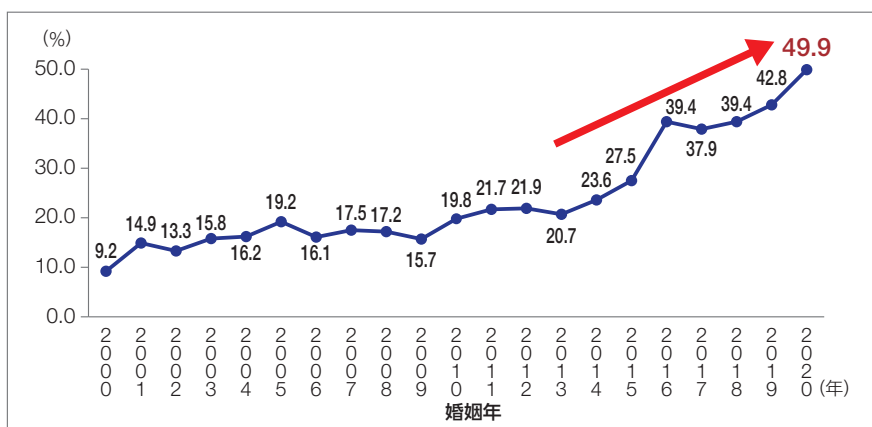


図2 婚活サービスごとの婚活サービスを通じて結婚した人の割合 (各年に結婚した人)



出典：「婚活実態調査2021(リクルートプライダグ総研調べ)」

図3 婚活サービスを利用していた人のうち、婚活サービスを通じて結婚した人の割合 (各年に結婚した人のうち、いずれかの婚活サービス利用者)



出典：「婚活実態調査2021(リクルートプライダグ総研調べ)」

これらの数字をみると、ここに来て婚活サービスは結婚の出会いの1つの手法として確立されたとみてよいでしょう。特に、ネット系婚活サービスを中心に、多くの人に利用され、結婚に結び付いているサービスとして大きな広がりを見せています。

### 婚活サービス利用者が増加した要因は 合理性と成婚率の高さ

いわば市民権を得たといえる婚活サービス。その要因は何でしょうか。1つはその合理性や効率のよさです。例えば、合コンなどで結婚相手を探そうとした場合は、相手に結婚願望がある

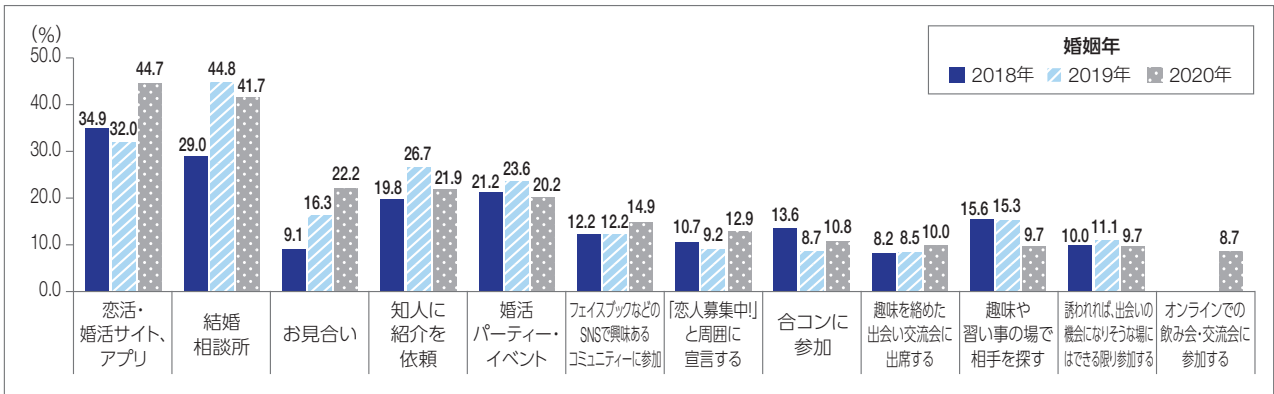
かどうかも分からず、手探りの状態でコミュニケーションが始まります。ですから、結婚まで到達するには時間がかかることが多く、もちろん結婚に至らないというケースもあります。しかし婚活サービスでは利用者に「結婚相手を探す」という共通

の目的があることが前提となります。そのために自身の情報もある程度開示し、同様に相手の情報も得ることができます。そして、結婚という目的達成のために、お互いがふさわしい人物なのかどうか、出会いの最初から真摯に見極めようとしています。つまり、結婚に至るまでの道のりがごくシンプルで早いのです。

実際「婚活サービスは結婚に至るまでの効率が悪そう」と考える人は41.7%います。この割合は年々上昇していて、婚活サービスの効率性が浸透してきていることが分かります。

また、利用すると結婚に至る割合が高いことも挙げられます。婚活サービス利用者のうち、婚活サービスを通じて結婚した人の割合は、2020年には49.9%に上っており、婚活サービスを利用すればほぼ半分の確率で結婚できるということになるのです(図3)。合コンや知人への紹介依頼など、広義の婚活を含めた成婚率をみると、合コンが10.8%なので、いかに婚活サービスが効率的であるかが分かります

図4 実施(利用)した婚活によって、結婚した人の割合(各年に結婚した人のうち、各婚活を実施[利用]した既婚者)



出典：「婚活実態調査2021(リクルートプライダグル総研調べ)」

(図4)。その効率のよさが、婚活サービスが受け入れられる背景といえるでしょう。

婚活サービスの利用者が増加した要因の2つ目は、自身のコミュニティとはまったく別のところで活動ができるということです。職場や学校での出会いは、自身のコミュニティでの活動、つまり「コミュニティ内恋愛」ということになります。そうすると、周囲の人間関係への配慮など何らかの影響を及ぼす可能性もあります。婚活サービスであれば自身のコミュニティとは外れたところでの活動「コミュニティ外恋愛」になるので、まわりの目を気にすることなく自由に振る舞うことができ、人間関係をおもんばかるという煩わしさが無いのも、周囲への配慮を重視する若い世代には特に大きな魅力となったことが考えられます。

そして、3つ目にはイメージの向上が挙げられるでしょう。かつては、婚活サービスを利用するのは恥ずかしいという意識が人々の中にありました。恋愛結婚がもてはやされていた時代には、婚活サービスを利用するのは自分で結婚相手を探せない人というイメージが無きにしもあらずで、サービスを利用するのを躊躇し、利用していてもそれを隠す人もいたようです。また、成婚率の不透明さから怪しいものではないかと危惧する人も。

ですが、婚活サービスの質が向上し、行政や有名企業も参入し始めるなかで、利用者が徐々に増え、そうしたネガティブなイメージがだん

だんと変化していったのです。実際に、我々の調査でも、周囲に利用者がある、あるいは婚活サービス利用で結婚できた人がいると、利用率が高くなるといったデータもあります。さらに、気軽に利用できるネット系婚活サービスも生まれ、今では婚活サービスを利用するのをためらう人は少なくなってきたといっただいでしょう。

### コロナ禍でも結婚への思いはあり、婚活サービスを継続的に利用

2020年に世界を襲ったコロナ禍は私たちの生活を一変させました。では、婚活サービスの利用状況はどうなったのでしょうか。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、1回目の緊急事態宣言が発出された2020年4月～5月の婚活サービスの利用状況をみると、利用を中止したという人は約2割にとどまり、約7割が利用を継続しています。つまり、新型コロナウイルス感染症の影響は、婚活サービスにおいては限定的だったと考えられます。

その背景には、コロナ禍においても恋愛や結婚への気持ちは衰えることはなく、むしろ増していることが挙げられます。もともと恋愛や結婚をしたいという希望がある独身者のうち、いずれは結婚したいという気持ちがさらに高まったという人の割合は実に41.6%、変わらないという人も含めると約9割の人が恋愛や結婚への気持ちをコロナ前と変わらずに持ち続けているのです(図5)。



未知のウイルスが蔓延する不安定な世界のなかで、何があっても揺らがないと信じられる「安心できる存在」をより強く求めるようになったことが背景にあると考えます。将来を考える時間がたっぷり生まれたこと、人と過ごすことのありがたみをより強く感じるようになったことも、恋愛や結婚への気持ちを高め、婚活サービスの継続利用に結び付いていると考えられます。

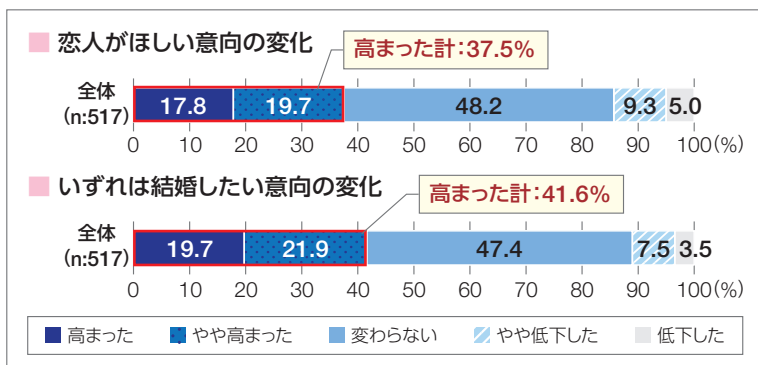
さらに、結婚相手に求める条件も変化していきます。新型コロナウイルス感染症の流行によって重視するようになった結婚相手の条件は、「安定した収入があること」「安定した職業であること」などで、経済的な安定を重視する傾向が強くなりました。また、ステイホームの時間が長くなったことの影響か、「長時間一緒に過ごすことが苦にならないこと」を挙げる人も目立ちました。

何が起こるか分からない不確実な社会では経済的な安定を強く意識せざるを得ません。また、コロナ禍や働き方改革などにより、さらに変化するであろう今後の暮らし方も想像して、パートナーとの距離感にも思いをはせるようになりました。経済的に安定していて、お互いを尊重することができ、一緒にいてラクな相手が、コロナ禍における理想の結婚相手の条件といえそうです。

### オンライン婚活など新しいスタイルで効率的に結婚にアプローチを

コロナ禍においては、人と人との接触が避けられるようになり、それは婚活サービスにも新しい展開をもたらしました。婚活においては、相手と実際に会うことが大切ではありますが、コロナ禍ではなかなか難しいこともあります。そのようななかで、オンラインを効果的に活用する動きが出てきています。その1つが、オンラインデートです。オンラインデートは、リアルなデートよりも費用が抑えられる、周囲の目

図5 新型コロナウイルス感染症流行前からの恋愛・結婚意向の変化(恋愛もしくは結婚意向のある婚活サービス非利用独身者および2020年3月-5月間の婚活サービス利用実績のある独身者)



出典：「婚活実態調査2020(リクルートプライダグル総研調べ)」  
 【調査方法】インターネットによるアンケート調査  
 【調査期間】2020年7月14日(火)～2020年7月20日(月)  
 【調査対象】(共通条件)全国の20～49歳の男女で現在独身者  
 【有効サンプル数】517サンプル

を気にせずに会える、リアルで会うよりも時間が自由といった特長が考えられます。さまざまな活動がオンラインで行われることに抵抗感が無くなってきた今、婚活サービスでもオンラインを利用した活動は今後も増えていくのではないのでしょうか。オンラインとリアル、両方でコミュニケーションを取るという時代に合わせた新しいスタイルの婚活は、今後の婚活サービスの主流になっていきそうです。

新型コロナウイルス感染症により、人々の意識や生活スタイルは大きく変わりました。しかし、他者とのつながりを求める本質的なニーズは依然と変わらないはずで、コロナ禍で物理的な距離が開いた分、精神的なつながりを求める気持ちはより強まったといえるでしょう。

コロナ禍はもちろん、コロナ後の世界においても、結婚相手を求める人たちにとって、婚活サービスは今まで以上に有効な手段となり得るはずで、もちろん、結婚するかしないかは個人の選択であることはいうまでもありません。しかし、結婚したいけれど、なかなか相手が見つからない。もしそのように感じている状況があるのなら、婚活サービスを利用してみるのもよいと思います。自分に合ったサービスを探し、利用することで、新たな人生の一步を踏み出せるかもしれません。